

令和 8 年 1 月 19 日

日本教材学会
会 員 各位

日本教材学会 関東甲信越支部
支部長 増田 有紀

日本教材学会関東甲信越支部
令和 7 年度総会・研究会のご案内（2 次案内）

師走の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本学会の活動に格別のご支援とご協力を賜り、深く御礼申し上げます。

さて、このたび 6 年ぶりに、日本教材学会関東甲信越支部令和 7 年度総会・研究会を、下記の要領で開催する運びとなりました。是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日 時 令和 8 年 2 月 28 日（土） 13:00 ～ 15:30

2. 会 場 埼玉大学大久保キャンパス（対面＋オンライン形式）

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255

※京浜東北線「北浦和」駅または埼京線「南与野」駅よりバス

<https://www.saitama-u.ac.jp/access/accessmap/>

※開催場所の詳細につきましては、「最終案内」にて掲載させていただきます。

3. 参加費 無料（資料はデータでの配布となります）

4. 総会 13:00 ～ 13:30

(1) 令和 7 年度事業報告

(2) その他

5. 研究会 13:30 ～ 15:30

シンポジウム

「教育 DX 時代の教材の可能性—デジタルとアナログの共存を考える—」

教育 DX の進展により、デジタル教材とアナログ教材の役割や関係性が改めて問われています。とりわけ、これまでの教材では扱いにくかった思考や探究の側面を取り入れた教材設計の在り方や、ICT・AI の活用を前提とした学習内容および単元構成の再検討が求められています。これらの動きは、単なる ICT 活用の拡充にとどまらず、教材観および学習観そのものの転換を伴うものです。一方で、実物操作や紙媒体を用いた学習など、アナログ教材がもつ教育的価値についても、デジタル教材との相互補完の観点から再評価する必要があります。

本シンポジウムでは、「教育 DX 時代の教材の可能性—デジタルとアナログの共存を考える—」をテーマに、各教科（算数・数学科、社会科、理科、音楽科）の実践および研究成果を踏まえ、デジタル教材とアナログ教材の特性、限界、可能性について理論的かつ実践的に検討します。研究者、現場教員、企業の三者の視点を交えながら、今後の教材設計および学習活動の在り方について多角的に議論します。

本シンポジウムを通して、デジタルとアナログの二項対立を超えた教材観を構築し、教育 DX 時代における教材の新たな可能性を展望していきます。

登壇者（予定）	増田 有紀（埼玉大学）	山口 直人（教育同人社）
	藤井 大亮（東海大学）	長澤 佑亮（沼津市立大岡中学校）
	前田 善仁（東海大学）	成井 良平（厚木市立睦合東中学校）
	森 薫（埼玉大学）	遠山 里穂（埼玉大学附属小学校）
	コーディネーター	成田 慎之介（東京学芸大学）

6. 参加申込

参加をご希望の方は、以下の **Google Form** から申込をして下さい。参加申込の締め切りは 2 月 23 日（月）といたします。なお、対面参加の場合は、当日受付も可能ですが、可能な限り、事前申込をお願いします。申込をされた方には、後日、発表資料等をメールで送付いたしますので、メールアドレスを必ずご入力ください。

<https://forms.gle/oRXsPq96QvEpnHJ68>

【お問い合わせ先】

日本教材学会事務局 jimukyoku@kyozai-gakkai.jp

【学会 HP】 <https://kyozai-gakkai.jp/>